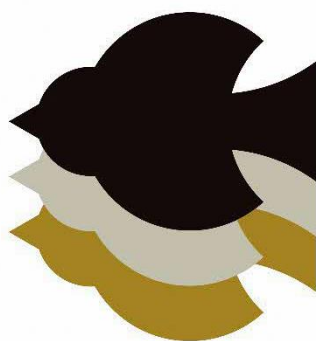


すみだ五彩の芸術祭 実施計画書



すみだ五彩の芸術祭
SUMIDA ART FESTIVAL

2026 年（令和 8 年）4 月

目次

1	はじめに	3
2	開催概要	4
	(1) 名称	4
	(2) 会期	4
	(3) 主催・共催	4
	(4) 目的	4
3	開催テーマとコンセプト	4
	(1) テーマ すみだの五彩	4
	(2) コンセプト「発気揚々（はっきようよう）」	5
4	ロゴデザイン・キービジュアル	5
	(1) ロゴ	5
	(2) キービジュアル	6
5	会場・開催エリア	7
	(1) 総合案内所	7
	(2) 作品展示・公演会場	7
	(3) イベント会場	7
6	実施体制	8
	(1) 主催等（再掲）	8
	(2) 実行委員会	8
	(3) 事務局	9
	(4) エグゼクティブディレクター	9
	(5) ディレクター ※50 音順	9
	(6) 地域コーディネーター	10
7	企画内容	11
	(1) 企画の種類	11
	(2) 自主企画	12
	(3) 共催企画	15
	(4) 公募企画（詳細は資料編「公募企画採択事業一覧」のとおり）	16
	(5) 連携企画	16
8	広報・PR	17
	(1) 広報・PR 体制について	17
	(2) オフィシャルグッズについて	17
9	開催運営	17
	(1) 運営内容	17
	(2) 運営体制	18
	(3) 鑑賞料（チケット販売）について	18
10	企業協力・協賛	18
	(1) 企業協力	18
	(2) 企業協賛	18

11 効果検証.....	19
(1) 施策に対する効果検証.....	19
(2) 芸術祭自体の効果検証.....	19
12 スケジュール（案）	19
2026 年（令和 8 年）	19
資料編	20
自主企画概要	20
公募企画採択事業一覧.....	30

1 はじめに

隅田川の悠久の流れのもと、江戸の昔から受け継がれてきた庶民文化やものづくりの伝統、地域の祭りや音楽など、墨田区には人々の暮らしの中から生まれ育まれてきた多彩な文化が息づいています。こうした文化は、時代が移り変わる中であっても、地域の人々のつながりによって守られ、育まれ、今日のすみだの魅力を形づくってきました。

本区ではこれまでも、すみだトリフォニーホールやすみだ北斎美術館をはじめとする文化拠点を中心に、区民の皆様や文化団体、事業者の皆様とともに文化芸術活動を積み重ねてまいりました。そうした活動の広がりの中で、文化芸術は人と人をつなぎ、新しい価値を生み出し、地域に活力と誇りをもたらす力を持つことが改めて認識されています。

こうした背景を踏まえ、本区では「すみだ五彩の芸術祭」を開催することといたしました。本芸術祭は、墨田区がこれまで培ってきた文化芸術活動の集大成として開催するとともに、区民の皆様、アーティスト、地域団体、企業など、多様な主体が関わり合いながら新たな文化を創造していく新たな挑戦の場として位置付けています。

芸術祭を通じて、区民の皆様が地域の歴史や文化、まちの魅力を改めて発見し、互いにつながりながら新しい表現や活動を生み出していくことにより、すみだへの誇りや愛着、いわゆる「シビックプライド」の醸成につながることを期待しています。また、国内外から多くの方々にすみだを訪れていただき、本区の魅力を広く発信する機会となることも願っております。

この実施計画書は、基本構想に基づき、すみだ五彩の芸術祭を具体的に実施していくための方向性と取組を示すものです。区民の皆様をはじめ、多くの方々と力を合わせながら、本芸術祭を通じて、文化芸術を核とした新たな地域のつながりと活力を生み出していきたいと考えております。

「人が主役」であり、「人と人とのつながり」を大切にしてきたこのまちの力を活かしながら、文化芸術を通じて未来へと続く魅力あふれるすみだを、皆様とともにつくりあげてまいります。

2026 年（令和 8 年）4 月吉日

すみだ五彩の芸術祭実行委員長

墨田区長 山本 亨

2 開催概要

(1) 名称

すみだ五彩の芸術祭

(2) 会期

2026 年（令和 8 年）9 月 4 日(金)～2026 年 12 月 20 日(日) ※原則毎週月・火曜日定休

総合案内所：10：00～17：00

※作品展示および公演の鑑賞可能時間は、各施設の営業時間に準ずる

(3) 主催・共催

主催：「すみだ五彩の芸術祭」実行委員会、墨田区

共催：「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会＜公募プロジェクト＞

(4) 目的

～「シビックプライドの醸成」と「文化芸術による『地域力』の向上」～

文化芸術とは、他者と共感し合う心を通じて意思疎通を密なものとし、人間相互の理解を促進するなど、個々人が共に生きる地域社会の基盤を形成し、人と人とをつなげ連携させる力があるとされています。そして「人と人のつながり」は、地域の課題を積極的に解決していく力である「地域力」の源泉となるものだと考えています。

本区には、長い歴史をはじめ、隅田川、相撲、祭り、北斎、伝統文化、ものづくり、音楽都市、地域社会の特色など、すみだならではの地域資源や文化資源が数多く存在しています。このような中で、すみだ固有の歴史や伝統を取り上げた活動や「すみだ」らしい景観やまちなみを尊重し、日々の暮らしや地域コミュニティの中で営まれる文化芸術活動を活かす形で行う総合的芸術祭は、多くの方に本区のことを知っていただく機会となるにとどまらず、区民自身が地元で行われる芸術祭を通じて、すみだのまちに対する「誇り」と「愛着」（シビックプライド）を育むことになります。

芸術祭を通じて地域の文化芸術活動を振興させることはもとより、地域の活動に関わり、より深く地域のことを知ることで、多くの方へ伝え合いが広まることが期待できます。さらに、これらの好循環が起これ、区民が直面する地域課題を解決するための「地域力」向上へ繋げる契機とすることを目指します。

芸術祭の魅力に惹かれて訪れる人が増加し、外部からの評価が高まるのと同時に、すみだの地域資源や文化資源の価値に気づく区民が増え、誇りや愛着も更に深まるという「好循環」を目指しながら、あわせて「暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたいまち」と「魅力や活力のある地域社会」を確かな形にしていきたいと考えています。

3 開催テーマとコンセプト

(1) テーマ すみだの五彩

墨田という文字に含まれる「墨」。水墨画では、墨や筆遣いと余白を組み合わせで多彩な世界を表現することを「墨に五彩あり」といいます。この芸術祭では「すみだの五彩」をテーマに、色彩溢れるこの世界を芸術を通じて表現し、地域や人の魅力、そしてすみだに暮らす喜びを再

発見していきます。

(2) コンセプト「発気揚々（はっきようよう）」

相撲の「はっきよい」というかけ声の元にもなったという言葉。作品を観て歩いたり、参加型の作品の一員になったり、作品をきっかけに話し合ってみたり。そんな日々を繰り返すうち、仲間が生まれ、すみだがかげがえのない土地になっていく。このコンセプトには、芸術を起点にすべての人がそれぞれのペースで居られる地域を創っていかうという気持ちが込められています。

4 ロゴデザイン・キービジュアル

(1) ロゴ

①デザイン



②テーマ・コンセプト

平安時代、現在の墨田区業平の地(現在の東京スカイツリーの立つ地)にて在原業平が詠んだ『都鳥』。平安の時代から現在、そして恐らく未来も、都鳥は、この地を飛んでいるであろう存在であることを想像します。都鳥を、時空を超え平安の時代から永く墨田区の「過去・現在・未来」を繋ぐ存在と捉え、この地で引き継がれている大切な物事、多くの先人達、そして私達一人一人の、経験・想い・願いをも未来へと繋いでゆく存在として、すみだ五彩の芸術祭ロゴへとデザインさせて頂きました。

多くの物事を発見し、伝え、未来へ繋ぎ、これまで、気づかなかったことに気づかせてくれ、見えなかった物事を見せてくれる、多くの役を担うであろう墨田区の総合的芸術祭の象徴となる、時代や人々を繋ぐキーワード、墨田区の更なる心豊かな美しい未来を創造すべく、時代を超えて羽ばたいてゆくロゴマークです。

(コンセプト・デザイン:高橋正実)

③ロゴパターン



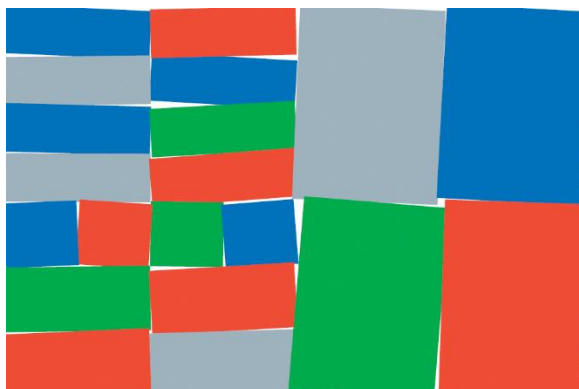
④デザイナー

高橋正実

クリエイティブディレクター／デザイナー 墨田区生まれ。桑沢デザイン研究所研究科卒業。MASAMI DESIGN 代表取締役。仕事はブランディング、グランドデザイン、企業全体・国・地域等の未来構想、コンサルティング、CI、グラフィック、プロダクト、パッケージ、インテリア、建築空間、科学研究分野、素材技術開発発明等多岐に渡る。十代の頃「社会の問題解決策としてのデザイン」という考え方を発表の後、「ブランドストーリー」「特殊印刷・特殊加工」「社会の問題解決（＝社会課題の解決）」「ヒト・コト・モノ」「社会のデザイン」等現在一般的に使われている言葉や概念を社会のためにと数多く生み、デザインを広く可能性を持つものとして広める活動を長きに渡り行ってきた。また、デザイナーという職業が日本の教科書ではじめて登場した際、登場・執筆を担当した人物でもある。国立大学法人豊橋技術科学大学 客員教授、iU 客員教授。

(2) キービジュアル

①デザイン



②コンセプト

「墨田」の文字を色面で解体・再構築し、グラフィック化しました。鮮やかな色を基調にしながら、無彩色も盛り込んで「五彩」を多角的に表現しています。また、それぞれの色面がランダムに傾くことで、墨田の「場」が作品によって躍動し、交歓が生まれることをイメージしています。各種媒体に合わせて比率を変化させても成り立つレスポンスなデザインを志向しました。

③デザイナー

関田浩平

グラフィックデザイナー。ロゴや広告、エディトリアル、サインデザイン等、グラフィックデザイン全般を対象に、個人／地域の小さな告知物から企業のブランドデザインまで、規模の大小を問わず活動している。墨田区在住で、曳舟のガイドマップや「ノウドひきふね」のロゴ、すみだモダンのポップアップイベントのデザインなど、地域に関連したデザインも手がけている。

5 会場・開催エリア

会場は①総合案内所 ②作品展示・公演会場 ③イベント会場に分けられます。

(1) 総合案内所

主に下記の機能等を想定しています。

- ・芸術祭の情報発信
- ・芸術祭の概要を示した展示／協賛パネルの展示
- ・芸術祭グッズの販売

加えて、地域の方々とコミュニケーションができる集える場所としての機能も検討しています。

(予定地)

- ・千葉大学墨田サテライトキャンパス
- ・ことまちラボ

(2) 作品展示・公演会場

自主企画や公募企画など、芸術祭期間は常設で作品を設置する会場および、演劇やダンスなどのパフォーマンスを実施する会場を指します。

(予定地)

- ・千葉大学墨田サテライトキャンパス
- ・すみだパークギャラリーささや
- ・ユートリヤ すみだ生涯学習センター
- ・ノウドひきふね
- ・旧安田庭園 心字亭
- ・ギャラリーX
- ・トッピングイースト花壇
- ・大正民家園
- ・タロハチ
- ・墨田区社会福祉会館

(3) イベント会場

期間限定でイベントを実施する会場を指します。街歩きやトークイベント、ワークショップなどが該当します。

(予定地)

- ・梅若橋コミュニティセンター
- ・すみだトリフォニーホール小ホール
- ・墨田区曳舟文化センター
- ・すみだパークシアター倉

6 実施体制

(1) 主催等（再掲）

主催：「すみだ五彩の芸術祭」実行委員会、墨田区

共催：「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会＜公募プロジェクト＞

(2) 実行委員会

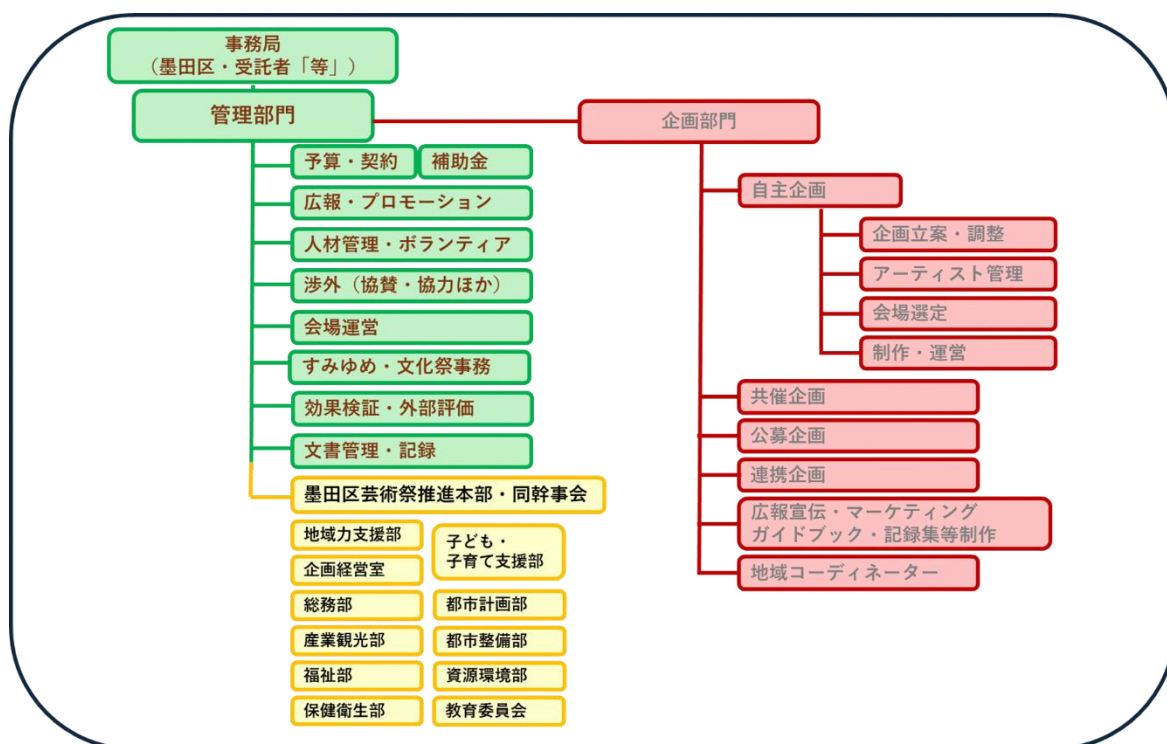
実行委員会を組織化し、その主催により実施します。

区分	No.	氏名	所属等
実行委員	1	猪俣聖人	東京都江戸東京博物館 副館長
	2	老田 勝	東京商工会議所墨田支部 会長
	3	岸川紀子	墨田区副区長
	4	岸田玲子	墨田区教育委員会 教育長職務代理者
	5	清宮陵一	NPO 法人トッピングイースト 理事長
	6	熊倉純子	東京藝術大学教授、大学院国際芸術創造研究科長
	7	佐原滋元	向島百花園茶亭さはら
	8	澁谷哲一	公益財団法人墨田区文化振興財団 理事長
	9	清水 誠	亀沢四丁目町会 会長
	10	須藤 正	社会福祉法人墨田区社会福祉協議会 会長
	11	塚田 進	墨田区伝統工芸保存会 会長
	12	野原健治	社会福祉法人興望館 理事長
	13	林 豊	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団専務理事
	14	落野雅宣	墨田区文化連盟 理事長
	15	前田泰洋	J:COM すみだ・台東局 局長
	16	三田大介	(有)モアナ企画 取締役、すみのわ運営事務局
	17	森山育子	一般社団法人墨田区観光協会 理事長
	18	山田 昇	墨田区商店街連合会 会長
	19	山本 亨	墨田区長
監 事		佐久間英樹	墨田区会計管理者
		福島優子	公認会計士、墨田区指定管理者選定委員会委員

（令和 8 年 3 月 27 日現在）

(3) 事務局

実行委員会には事務局を置き、主に管理部門と企画部門の2つのチームから構成します。



(4) エグゼクティブディレクター



神野真吾

東京藝術大学大学院美術研究科修了(現代芸術論)。山梨県立美術館学芸員を経て2006年より千葉大学教育学部。アートの社会的価値についての理論的および実践的研究に取り組む。千葉市文化芸術振興会議委員長、千葉アートネットワーク・プロジェクト(WiCAN)代表。

(5) ディレクター ※50音順



撮影：加藤甫

青木彬

1989年生まれ。現在は東京、京都を拠点に活動。首都大学東京インダストリアルアートコース卒業。アートを「よりよく生きるための術」と捉え、アーティストや企業、自治体と協働して様々なアートプロジェクトを企画している。主な活動に「SENSE ISLAND/LAND | 感覚の島と感覚の地 2024」ゲストキュレーター(横須賀市,2024)、「三島満願芸術祭 2024」ゲストキュレーター(三島市,2024)、まちを学びの場に見立てる「ファンタジア!ファンタジア!—生き方がかたちになったまち—」ディレクター(墨田区,2018~)などがある。『幻肢痛日記』(河出書房新社)著。



荻原康子

アーティスト・イン・レジデンスの調査や現場運営などを経て、1994年にINAX文化推進部所属、1996年よりキュレーター・オフィスで展覧会企画及び美術館運営補助業務に携わる。2001年に企業メセナ協議会入局、顕彰事業と機関誌等を担当し、延べ500件ほどのメセナ（芸術文化支援）活動取材する。アサヒビールのメセナ活動「すみだ川アートプロジェクト」他のコーディネート、「東日本大震災 文化・芸術による復興支援ファンド」の設立等にも関わる。2011年に事務局長就任。2017年に墨田区文化振興財団常務理事就任、2019年よりアートプロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」統括ディレクター。2020年より上田市交流文化芸術センター（サントミュージゼ）総合プロデューサー、2025年に館長着任。



清宮陵一

1974年東京都生まれ。21世紀初頭にアナログ専門レーベル vinylsoyuz をスタート。坂本龍一氏の commons に参画後、音楽プロダクション合同会社ヴァイナルソユーズを立ち上げ、様々なアーティストのサポートや特別なヴェニューでのパフォーマンスをプロデュース。『BOYCOTT RHYTHM MACHINE VERSUS』『ELECTRONICOS FANTASTICOS!』を主宰。2014年設立のNPO法人トッピングイーストでは、参加型のアートプログラムを東京都で実践。2021年より『隅田川怒涛』シリーズを展開中。「すみゆめ」の名付け親でもあり「すみゆめ踊行列」の企画制作も担当。



三田大介

1972年東京都墨田区生まれ。東京工業大学（現東京科学大学）大学院人間環境システム専攻修了。建設コンサルタント会社、都市デザイン事務所勤務を経て独立。2013年に共同で立ち上げた地域のクリエイターのグループ「すみだクリエイターズクラブ」のメンバーと共に、地元墨田区を拠点に福祉・産業・文化などの分野で地域コミュニティをつなぐコーディネーターとして活動している。主な活動に、障害者福祉事業所工賃UPプロジェクト「すみのわ」（2014～）、墨田区発の福祉アートプロジェクト「みんな北斎」（2016～）、地域の個店の課題解決をサポートする「墨田区商業コーディネーター」（2017～2026）、すみだ3M運動40周年祭（2024）副実行委員長など。

(6) 地域コーディネーター

すみだ五彩の芸術祭は、単に作品を展示する場にとどまらず、地域の皆さんとともに作りあげていくことを目指します。会期中はもちろん、会期外にも関連イベントを展開することで、そのつながりを広げていきます。また、地域と芸術祭をつなぐ存在として「地域コーディネーター」が加わり、誰もが参加しやすい環境づくりのために共に活動を進めていきます。

3名の地域コーディネーターが中心となり墨田区にゆかりのあるさまざまな分野のメンバーで構成された五彩睦（ごさいむつみ）が地域と芸術祭をつないでいきます。

多賀健太郎

1981 年生まれ、2011 年から墨田区在住。2019 年に墨田区で起業。タグ・エー合同会社代表。すみだストリートジャズフェスティバル実行委員長、墨田区商店街振興組合連合会企画担当など、音楽・観光・地域振興の分野で幅広く活動。小笠原諸島や八丈島などで地域振興系音楽イベントを立ち上げ、地域資源の魅力を発信する「アット・ジ・アース プロジェクト」を主宰。商店街 PR や観光イベントの企画・運営、メディア編集など多岐にわたりプロデュースを手がける。

長加誉

墨田区出身、墨田区在住、2009 年に鳩の街通り商店街「鈴木荘」に来ていたレジデンスアーティストとの出会いをきっかけに地域、アートマネジメントの活動を始める。誰もが表現できる・挑戦できる地域の土壤に愛着を持ち、生活に近い場所にアートがある状況・環境を目指して、墨田区では「39 アート in 向島」(2010-2019)を企画運営、「みんな北斎プロジェクト」(2016-)などに関わる。

細田侑

WORK CINEMA Paradise・Ucycle 代表。映画館の 2 階を拠点に、映画を軸に人々が働き・語り・ひらめく場「WORK CINEMA Paradise」を運営。1991 年墨田区両国生まれ。大学でコミュニティマネジメントを学び、「すみだ青空市ヤッチャバ」参画や震災支援を経験。隅田川を舞台にしたアートフェスや野外映画祭「すみだパークシネマフェスティバル」など多様な場づくりを手がけ、2020 年に Ucycle を設立。公共空間活用、食の小商い支援、映像制作を展開している。

五彩睦

芸術祭を自分たちの祭りとして賑やかしていくチームで、さまざまな場面で協力をいただきます。会期前は、トークイベント「五彩往来・逢い語らい」や、芸術祭について語る場「五彩カフェ」を定期的に開催しています。

7 企画内容

(1) 企画の種類

下記のとおり 4 つの企画を実施します。

種別	定義	対象	特徴
自主企画	芸術祭の企画方針「5 つのすみだらしさ」に則って、芸術祭のディレクターがアーティストを招聘するなどし、自主的に実施する事業。	実行委員会が主催する事業であり、各ディレクターが企画するもの	・芸術祭事務局が企画や予算、運営を直接担当 ・実行委員会での承認を経て実施するもの
共催企画	墨田区及び墨田区と協力関係にある各団体等が実施する事業で、芸術祭の趣旨に合致し、	・区の各所管事業 (各課の主催・共催事業) ・すみゆめ自主企画※	名義：「芸術祭共催企画」表記 ・公共施設の優先的使用、後援支援の対象

	かつ実行委員会と連携・協議を経て共同で主催される事業。 事務局は広報に加えて日程及び会場調整・予算・運営の一部または全部に関与する。	・墨田区文化祭 ・墨田区文化振興財団事業	・広報連携、公式 Web 等で紹介 ・予算の一部支援などを受ける場合も。実行委員会は計画段階から調整関与。
公募企画	応募要項に沿って、広く一般から企画提案を募集し、審査の上で公式プログラムとして採択・実施する事業。企画自体はすみゆめ事務局が担当し、すみゆめと同じく伴走支援を受けられる。	・すみゆめ公募	名義：「芸術祭公募企画」表記 ・募集要項に基づき広く公募 ・審査委員会等による選考・採択。採択後、実行委員会と協議・調整の上で実施 ・実行委員会が一定の助成・運営支援（資金・広報・会場等）を行う。 ・芸術祭公式プログラムに掲載
連携企画	芸術祭の趣旨に賛同し、独自に事業を実施する第三者による企画で、実行委員会が企画を承認し、芸術祭の関連事業として「連携」を認めるもの。独立した主催者が実施するが、内容が芸術祭の趣旨と親和性が高く、相互の集客・波及効果が見込まれる事業を対象とする。	・区の各所管事業 ・すみゆめネットワーク企画 ・文化芸術活動助成補助対象事業 ・すみだジャズフェスや河内音頭などの各課後援事業 ・民間ギャラリー等の展示	名義：「芸術祭連携企画」表記（ロゴ使用可能） ・広報連携、タイアップが中心 ・原則財政支援、運営協力及び会場提供等は行わない。

(2) 自主企画

① 制作方針

ディレクター一人一人が単独でプロジェクトを立ち上げるのではなく、相互に議論し、それぞれが持っている関係値やリソースを活かしながら立案、ディレクター同士の相互の関係性を生かして魅力の最大化を目指します。

企画の内容については、墨田区の「歴史」や「文脈」、「社会」や「コミュニティの今」等が踏まえられた人々の日常に接続した企画であること、企画を通して、参加者が墨田区のイメージを明確に、深く抱けることを重視しつつ、また内容を理解するための取り組み（配布資料など）がなされることなど、見せ方にも工夫をします。

② 地域の各団体との相互連携

地域の各団体と相互にコミュニケーションをとり、墨田区の地域を丁寧にリサーチしたり、団体と連携したりしながら企画を練り上げていきます。

③ 企画一覧（詳細は資料編「自主企画概要」のとおり）

	企画名(案)	開催期間(案)	会場(案)	ディレクター
①	・向かいのきたん (家のなかの家／市松人形／屏風) ・まちが見た夢、川にたゆたう喪失 ・いしふみのかげふみ	9月4日～ 12月20日	白鬚東アパート	神野真吾 荻原康子 三田大介
②	写真展示「すみだのひとびと」	9月4日～ 12月20日	写真を撮影した地域の町会 会館や施設	神野真吾
③	色を纏う、共に縫う	9月4日～ 12月20日	千葉大学墨田サテライトキ ャンパス	神野真吾
④	・わたしたちがつくるのは、 ・わたしたちがつくるのは、福祉の現場リ サーチ展 ・わたしたちがつくるのは、○○○○○展 (仮)	9月4日～ 12月20日	ノウド曳舟、Connect Base すみだ、曳舟～東向島の街な か各所	三田大介
⑤	『梅若はまだ帰らない。』	9月4日～ 9月6日	すみだパークシアター倉	荻原康子
⑥	食いっぱぐれない明日 ・一日は、朝陽と共に始まり、夕陽と共に 終わる(仮) ・Efficiency of Mutualism ・TravelingDrops／MorphDrops 他 ・隅田川心場所(仮) ・すみだ農園 INCREDIBLE EDIBLE SUMIDA ・BLOOMING EAST(仮)	9月4日～ 12月20日	トッピングイースト花壇 旧安田庭園 心字亭 両国リバーセンター ギャラリーX モクシー	清宮陵一
⑦	演技とケア	9月10日～ 9月12日	パークシアター倉	荻原康子
⑧	ブリッジ！-アートと社会福祉のあわいの なかで- プロポータル展示	9月10日～ 10月19日	ユートリヤ すみだ生涯学 習センター	青木彬
⑨	解放されたプロメテウス	9月19日～ 11月29日	すみだパークギャラリーさ さや	神野真吾
⑩	謎音研究所「謎音-忘却の川-」	10月16日～18日 10月23日～26日 10月30日～11月 1日 ※ゲネプロ:10月 17日	鐘ヶ淵沈鐘伝説ゆかりの地	荻原康子

	企画名(案)	開催期間(案)	会場(案)	ディレクター
⑪	『白鬚東アパート周辺漂流ダンスツアー』	11月3日	白鬚東アパートを中心とする周辺公共空間(予定)	荻原康子
⑫	TRIPHONY SYMPHONY ・次世代芸術表現実践 ・盆踊りを語ろう歌おう ・墨田音楽都市構想 2.0	11月4日～8日	すみだトリフォニーホール 小ホール	清宮陵一
⑬	ブリッジ！-アートと社会福祉のあわいのなかで- 統括展示&シンポジウム	12月4日～20日	ユートリヤ すみだ生涯学習センター	青木彬
⑭	「歓喜の歌～すみだ特別編」	12月18日～20日	墨田区曳舟文化センター	荻原康子
⑮	本所七不思議をテーマにした企画	調整中	本所七不思議ゆかりの地	神野真吾
⑯	・すみだ鉄道 見立て線 開通 ・すみだ鉄道・境界線 ・MICRO DISCOVERY TICKETS ・東武博物館内 展示企画	調整中	東武博物館	荻原康子
⑰	東墨田に咲く花 ・アーティスト企画 ・創造力の学校	調整中	墨田区社会福祉会館、八広エリア	神野真吾 清宮陵一
⑱	すみだの記号 (仮)	調整中	調整中	神野真吾
⑲	中山晴奈による企画展示	調整中	調整中	神野真吾
⑳	沢村澄子による書道作品展示	調整中	調整中	神野真吾
㉑	みんなが社会のアーティスト (仮)	調整中	調整中	神野真吾

(令和8年3月現在)

④ 自主企画で活用する主な会場 (案)



ユートリヤ すみだ生涯学習センター

区民の生涯学習活動や文化活動、地域活動の拠点として、地域の活性化を図るための施設。

所在地：墨田区東向島二丁目 38 番 7 号



墨田区曳舟文化センター

本格的な演劇や音楽会、軽運動や展示、各種集会など文化的交流の場として、幅広く利用できる施設。

所在地：墨田区京島一丁目 38 番 11 号



トリフォニーホール小ホール

区民の多様な芸術文化活動に対応し、小規模な室内演奏、ピアノ発表会等が行えるホール。

所在地：墨田区錦糸一丁目2番3号



すみだパークギャラリーささや

錦糸町とスカイツリーをつなぐ大横川親水公園に面した倉庫を改装し、さまざまな表現を、垣根なく企画・紹介・発信するスペース。

所在地：墨田区横川一丁目1番10号



墨田区立 立花大正民家園

幾多の災害もまぬがれた農家と町屋の特徴がある住宅。この地域の住宅の特徴を受け継ぐとともに、江戸時代からの農家と町屋の雰囲気をも今に伝える。

所在地：墨田区立花六丁目13番17号



日本家屋「タロハチ」

墨田区の登録文化財に認定された昭和11年生まれの日本家屋。東京大空襲の被害から逃れた本家屋は、当時の生活様式が垣間見え、職人技が光る。

所在地：墨田区立花6丁目内



千葉大学墨田サテライトキャンパス

1階から2階は地域に開放するエリアと位置づけ、地域の方々が気軽に立ち寄り、大学の取組を身近に感じることのできる施設。

所在地：墨田区文花1丁目19番1号

⑤ 制作スケジュール（案）

2026年（令和8年）2月：展示の基本プラン策定

2026年（令和8年）4月：リサーチ開始

2026年（令和8年）6月：作品制作開始

2026年（令和8年）8月：展示作業

2026年（令和8年）9月：展示開始

(3) 共催企画

① 方針

墨田区及び墨田区と協力関係にある各団体等が実施する事業で、芸術祭の趣旨に合致し、かつ実行委員会と連携・協議を経て共同で主催される事業を共催企画とします。事務局は広報に加えて日程及び会場調整・予算・運営の一部または全部に関与します。

具体的には、墨田区文化振興財団の主催事業（すみだトリフォニーホールの音楽事業及びすみだ北斎美術館事業等）、墨田区文化祭及び区内事業について、芸術祭共催企画とすることで調整しています。

(4) 公募企画（詳細は資料編「公募企画採択事業一覧」のとおり）

① 方針

すみだ五彩の芸術祭開催にあたり、すみだ固有の歴史やコミュニティに息づく事業にちなみ、さまざまな地域資源をいかした、広くまちなかで展開する多彩なプロジェクトを公募します。

② 公募概要

- ・公募企画名称：「すみだ五彩の芸術祭＜公募プロジェクト＞」

- ・申請受付期間：2026 年（令和 8 年）1 月 12 日（月・祝）～2 月 16 日（月）

- ・事業実施期間：2026 年（令和 8 年）9 月 4 日（金）～12 月 20 日（日）

- ・実施場所：墨田区及び隅田川流域で実施する企画

- ・事業内容：

- ◎発表・公開を伴うアートプロジェクト、公演、展示、上映等の芸術文化活動で、かつ、すみだの人やまちとかかわるプログラムを含むもの。

- ◎芸術祭のテーマに、独創的かつ新たな視点でアプローチするもの。

- ◎歴史、ものづくり、景観、地形、伝説、伝統芸能ほか、すみだの多彩な地域資源を活かすもの。

- ・支援内容：上限額 100 万円枠・上限額 200 万円枠（補助率 10/10）

(5) 連携企画

① 方針

芸術祭の趣旨に賛同し、独自に事業を実施する第三者による企画で、実行委員会が企画を承認し、芸術祭の関連事業として「連携」を認めるもの。独立した主催者が実施しますが、内容が芸術祭の趣旨と親和性が高く、相互の集客・波及効果が見込まれる事業を対象とします。

② 対象となる企画

- ・実施場所：墨田区及び隅田川流域で実施される企画であること。

- ・期間：2026 年（令和 8 年）9 月 4 日から 12 月 20 日までに行われる企画であること。

- ・企画内容：発表や公開を伴う文化・芸術活動及びその他表現活動であること。

（例：展示、公演、上映、ワークショップ、トーク、地域活動と連動した企画 等）

- ・すみだ五彩の芸術祭の趣旨を理解し、親和性のある企画であること。

- ・「すみだの地域資源※」を活かした企画であること。

- ・区民又は来訪者に開かれた企画であること。

③ 連携（支援）内容：連携企画として承認された場合、以下の広報支援を行います。

- ・芸術祭公式ウェブサイトでの紹介

- ・芸術祭公式 SNS アカウントでの情報発信

- ・区内公共施設及び芸術祭会場でのチラシ配架

- ・芸術祭公式ロゴの使用許可

- ・「すみだ五彩の芸術祭連携企画」表記の使用許可

※ 補助金・会場提供・運営協力は行わない。

8 広報・PR

(1) 広報・PR 体制について

① 方針

芸術祭を実施していることを適切に伝え、鑑賞者が芸術祭に触れる機会を最大化することで、芸術祭のゴールであるシビックプライドの向上に寄与します。

また、人々の日常に目を向け、人々との接点を作る芸術祭であることから、媒体はターゲットの日常に接したものを選定し、伝え方やコンテンツも誰が聞いてもわかるような表現にします。

② 制作物（案）

- ・特設サイト：<https://sumida-artfest.jp>
- ・SNS アカウント ※2025 年度より運用中
 - フェイスブックアカウント：@sumida_artfest
 - X アカウント：@sumida_artfest
 - Instagram アカウント：@sumida_artfest
- ・チラシ、ポスター
- ・区報特別号
- ・交通広告（駅舎コンコースウォール等）
- ・メディア広告（TV やラジオ、新聞、WEB 等）
- ・商店街フラッグ等

③ 広報宣伝プロデューサーの起用

森隆一郎

合同会社渚と 代表

芸術文化の現場制作・広報やリサーチなどに携わる。境界線が揺らぐ場＝「渚」にちなんで、アートと社会の間に新しい関係性を育むことを目指す。これまで、東京や福島で文化施設の新たなあり方を実践、アーツカウンシル東京で PR ディレクターを務め、2018 年に独立。2022 年から 25 年までアーツカウンシルさいたまでプログラムディレクターを務める。現在は、銀座ヴィジョン会議、文化コモンズ研究所、青山学院大学非常勤講師など。共著に「文化からの復興 市民と震災といわきアリオスと」水曜社。

(2) オフィシャルグッズについて

ロゴやキービジュアルを活用したトートバッグやクリアファイルなどのオフィシャルグッズ制作を検討中です。

9 開催運営

(1) 運営内容

① 総合案内所運営

総合案内所におけるお客様対応を行う予定です。

② 展示・公演会場運営

展示・公演会場での監視業務、会場の開場閉場管理、公演企画を実施する会場での受付業務を行う予定です。またアクセシビリティに配慮した展示、会場運営に努めます。

③ 企画サポート

アーティストの作品制作サポートや街歩きやトークイベント、ワークショップのサポートを行う予定です。また、プレイメントなども企画し、芸術祭への機運醸成を図っていきます。

(2) 運営体制

運営全体を統括する人員を置き、総合案内所、展示・公演会場には、区役所職員や五彩睦（※）スタッフ（ボランティアリーダーおよびスタッフ）を配置して着実な運営体制を構築します。

※「地域コーディネーター」と一緒に企画をつくりあげていく、地域で活動するさまざまな分野の方々の集まりを、お祭りでなじみのある言葉「睦」にちなみ「五彩睦」と名付けました。芸術祭を自分たちの祭りとして賑やかにしていきます。会期前は、トークイベント「五彩往来・逢い語らい」や、芸術祭について語る場「五彩カフェ」を定期的を開催します。

(3) 鑑賞料（チケット販売）について

原則として鑑賞料無料とし、観劇、音楽鑑賞などの公演企画については、各企画運営者ごとに金額を設定し、販売します。

10 企業協力・協賛

芸術祭では、企業等との連携を図るため、次のとおり協力及び協賛の枠組みを設けます。協力企業については、公式ウェブサイト等での紹介や感謝状の贈呈を予定しています。

(1) 企業協力

企業の強みや資源を活かし、芸術祭の運用面及び制作面での協力を求めます。

<想定している協力内容>

- ・運営補助、来場者案内、受付等への協力
- ・広報物の掲出、SNS 等による情報発信への協力
- ・車両、駐車場、空きスペース等の提供
- ・素材や端材の提供、加工・試作等の制作協力
- ・機材や設備の貸与 など

(2) 企業協賛

芸術祭の趣旨に賛同する企業からの協賛金を募り、事業の安定的な運営を図ります。協賛特典として、公式ウェブサイト、公式発行物、SNS、PR 媒体等への名称・ロゴ掲載等を予定しています。

<協賛プラン一覧>

【芸術祭パートナー】

- ・ゴールドパートナー 100万円以上または同等協賛
- ・オフィシャルパートナー 50万円以上または同等協賛
- 【五彩サポーター】
- ・オフィシャルサポーター 20万円以上または同等協賛
- ・企業サポーター 5万円以上または同等協賛
- ・個人サポーター 1万円以上

11 効果検証

(1) 施策に対する効果検証

芸術祭の実施にあたっては、事業評価と今後の事業運営の改善に生かすことを目的として効果検証を行います。検証にあたっては、当芸術祭が地域力の向上をその目的としていることから、その目標達成へ向けた4つの施策目標の達成度合いについて、ロジックモデルに基づいた成果指標を設定します。

この成果指標について、開催前後における区民を対象としたアンケート調査を実施し、文化芸術活動を通じた区民意識の変化の把握などを通じた検証を行います。

(2) 芸術祭自体の効果検証

(1)と同じ目的で、催事としての芸術祭自体について、来場者及び関係者（アーティスト、協賛者、制作協力者等）を対象としたアンケート調査とヒアリングを実施し、芸術祭自体の満足度や行動・意識面の変化についての効果検証のほか、SNS等の反響分析も行います。

またこれらについて、高度かつ専門的識見を有する外部評価委員から意見聴取を求めることとします。

12 スケジュール（案）

2026年（令和8年）

- 3月 実行委員会（第7回）
- 4月 全自主企画概要・公募プロジェクト採択企画発表
- 5月 実行委員会（第8回）
- 6月 作品制作・ワークショップ実施
- 7月 実行委員会（第9回）・前夜祭企画開催
- 9月 すみだ五彩の芸術祭の開催（～12月）

「すみだ五彩の芸術祭 実施計画書」

2026年（令和8年）4月

発行 墨田区 地域力支援部 文化芸術振興課
〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋一丁目23番20号
TEL.03-5608-2821

資料編

自主企画概要

●『わたしたちがつくるのは、』 アートに取り組む障害のある方及び区内福祉事業所

期間：2026年9月4日（金曜）～12月20日（日曜）

場所：ノウドひきふね、地域活動支援センター Connect Base すみだ、曳舟～東向島の街なか各所

人はなぜつくるのか？地域の障害のある人々との対話を通して、創作や作品が本人にとってどんな意味をもつのかを、暮らしの風景や支える人の言葉、ささやかなエピソードからひもときます。また、福祉事業所を取材しグループや個人の様々な創作の在り方を紹介するほか、日々の創作の場づくりとしてはじまったアトリエ活動から生まれる作品を街なか各所に展示。曳舟～東向島の街を巡りながら、つくることの意味を感じていく展覧会です。



●『食いっぱぐれない明日』 いとうせいこう、xlab〔東京大学寛康明研究室〕、コムアイ、滝戸ドリタ、福田恵 ほか

期間：2026年9月4日（金曜）～12月20日（日曜）※一部イベントや早めに終了する企画もあり

「誰も食いっぱぐれないまちづくり」をテーマに、アート作品の展示と体験・交流を図る場を構成します。「地産地消」「テクノロジー」「心的ケア」をキーワードに、多様なバックグラウンドを持つアーティストと共にこの地域のサステナブル・ウェルビーイングを実現していこうとする展覧会です。

・「隅田川心場所（仮）」 いとうせいこう

場所：隅田川テラス

クリエイターとしてあらゆるジャンルにわたる幅広い表現活動を行っているいとうせいこう。2018年に出版した「ラブという薬」は、普段から患者として通う精神科の主治医・星野概念との診療の模様を綴った対談集で、その後出版を機にオンライン上で誰もが参加可能な「心のことを話してみる場所～心場所～」を定期的開催しています。

本プログラムでは隅田川のほとりにて多様なケアが行き交う“公共空間心場所”を開いていきます。



・「未定」 xlab〔東京大学寛康明研究室〕（えっくすらぼ）

場所：両国周辺施設

メディアアートの領域で技術を駆使した作品表現に取り組んできた寛康明が、東京大学大学院情報学環にて主宰する研究室「xlab」は Material Experience Designというコンセプトをもとに多様なバックグラウンドを持った学際的で国際的なメンバーが在籍し、活動しています。

今回は生命の源であり、人間が生きていく上で最も重要な構成要素である「水」を扱った作品等を展示する予定です。



画像クレジット | 《Traveling Drops》, Shin Chen + 森田崇文 + 寛康明, 2026

・「BLOOMING EAST (仮)」 コムアイ

場所：錦糸町周辺施設

音楽ユニット「水曜日のカンパネラ」を2021年に離れ、その後はソロアーティスト・俳優として活動するコムアイ。2018年より、主に東東京に暮らす外国にルーツを持つ人々との交流をレポートしてきた活動を、本芸術祭バージョンとして発展させます。生まれ育った土地の食事をつくり、習い合うことで親交を深めていく。多国籍タウン錦糸町をオープンキッチン化、異なる文化を異なるまま知り、学ぶ姿勢からほんとうの共生がはじまります。



・「Energeia Cycle 分解と循環のエネルゲイア」 ほか 滝戸ドリタ（たきど・どりた）

場所：コミュニン X

生物の機能や感覚を組み合わせ、従来の感覚がずれるような体験を創出し、ヒトと生物の新しい関係を築くことを目指す滝戸ドリタ。植物と共生する微生物によって生まれた電気を再び植物へと還流させ、電気刺激を介して植物の成長促進を試みる作品を展示します。今回新たに地域の植生を用いて多様な植物で発電が起こるか否かを実験。人間の道具としての電気と自然との関わりを再考する機会を提示します。また、温度によって編み直される生物同士の新たな関係をそっと浮かび上がらせることも試みます。



・「すみだ農園 EDIBLE SUMIDA」

場所：墨田区各所

日本の食料自給率は38%（カロリーベース／令和6年度統計）と停滞しています。物価高、エネルギー価格の高騰などの要因も重なり、食糧コスト及び安定供給に不安を感じる方も少なくないと思います。

そのような現代にあって「食べるものを作ること」についてイチから学んで実践するプログラムを実施します。芸術祭の会期中には「作った作物を持ち寄って食べる」機会もつくります。誰もが自宅や近所で参加できる取り組みです。



・「一日は、朝陽と共に始まり、夕陽と共に終わる」「育児協奏曲」 福田恵（ふくだ・めぐみ）

場所：未定

自然と人工の浸食的な関係性や個を規定する枠組みに関する作品を手がけてきた福田恵。

太陽光で稼働するシリーズ作品「一日は、朝陽と共に始まり、夕陽と共に終わる」の展示と、育児という営みを協奏曲として再解釈し、社会全体で共有していくワーク・イン・プロGRESSな参加型音楽表現にトライします。

画像クレジット | 《一日は、朝陽と共に始まり、夕陽と共に終わる》, 2014年, 技術協力: Energiesysteme Paap GmbH, 撮影: Mihoko Honma, Ulrike Jordan



●『いしふみのかげふみ』 風間サチコ（かざま・さちこ）

期間：2026年9月4日（金曜）～12月20日（日曜）

場所：タロハチ

風間サチコは、木版画による緻密なモノクローム表現で、近代日本や世界の歴史、戦争、労働のイメージを再構成する作家であり、新聞写真や図像を参照しながら、社会の記憶と権力構造を鋭く浮かび上がらせる作品で知られています。今回墨田では、大火、震災、空襲によって度々襲われてきたこの地で、ずっと変わらずそこに存在し続けてきた「石碑」「石塔」をテーマに、作品を制作します。展示される場所は、空襲を生き延びた貴重な日本家屋で、時代ごとに火により姿を変えてきた墨田の、別の姿を体験することになるでしょう。

画像クレジット | 《FLOW（雄島／誰まつしまぞ）》，2023，撮影：森田兼次



●『写真展示「すみだのひとびと」』 蔵真墨（くら・ますみ）

期間：2026年9月4日（金曜）～12月20日（日曜）

場所：菊川三丁目会館 ほか

日常の中に潜む、その人固有の時間をすくい取る写真家・蔵真墨。「すみだのひとびと」と題された本展では、墨田という土地に通い続ける中で出会った人々の姿が提示されます。

小さな区でありながら、場所ごとに異なる気配を持つ墨田。蔵はその空気に身を委ねながら、人と場所の関係性を静かに写し出します。

今回の展示では、写真に加え、撮影時の思考や感覚を言葉として併置し、視覚と言語が交差するフォトエッセイとして構成されます。展示は区内3カ所で開催され、それぞれの場の空気の差異そのものが、作品の一部として立ち上がることになるでしょう。

画像クレジット | 撮影：Masumi Kura



●『色を纏う、共に縫う（仮）』 小泉智貴（こいずみ・ともたか）

期間：2026年9月4日（金曜）～12月20日（日曜）

場所：千葉大学墨田サテライトキャンパス（1階および地下）

世界的に活躍するファッションデザイナー、小泉智貴は、オーガンジーを幾層にも重ねた独自のフォルムと鮮やかな色彩で知られます。

本展では、その華やかな作品を紹介するとともに、繊維産業の歴史をもつ墨田という土地の歴史と小泉の制作の背景にも焦点を重ねます。また、来場者が地域の繊維素材を用いて制作に参加するプロジェクトを展開。美しさとその背後にある現実が交差する場において、私たちが享受している時間の意味を問い返す試みとなるでしょう。



●『向かいのきたん』 山口藍（やまぐち・あい）

期間：2026年9月4日（金曜）～12月20日（日曜）

場所：立花大正民家園 旧小山家住宅

江戸期に生きる凛とした少女像を繊細に描く美術家・山口藍。本展では、工芸的出自に裏打ちされたその丁寧な表現を起点に、墨田で継承されてきた市松人形や屏風の職人と協働し、新たな表現に挑みます。会場は、震災や空襲を経て古い建物がほとんど残されていない墨田区において、数少ない歴史的建築の一つ。時間の層を宿す空間の中で、過去と現在が交差することになるでしょう。



●『水神の杜へ』 宮永愛子（みやなが・あいこ）

期間：2026年9月4日（金曜）～11月1日（日曜）（予定）

場所：北條工務店となり ほか

日用品をナフタリンでかたどるオブジェや陶器の貫入音を使うインスタレーションなど、気配の痕跡から時間を視覚化し、「変わりながらも存在し続ける世界」を表現する宮永愛子。白鬚東アパートから隅田川神社の周辺一帯をリサーチし、往時に描いた夢の街づくりを生きる現在地に佇んで、かつての風景を想像し歴史に思いを馳せる機会をつくります。地面の石が抱える空気、川と隔てられた水神様、作品に導かれていく体験となります。



画像クレジット | 《万寿の園－海がみえそうなカープー》, 2025, 撮影：Ryo Yoshiya

●『梅若はまだ帰らない。』 山崎広太（やまざき・こうた）

<戯曲ダンス版>

期間：2026年9月4日（金曜）～9月6日（日曜）

場所：すみだパークシアター倉

能「隅田川」の梅若伝説、生きては出会えなかった母と子の物語に触発され、山崎広太が現在に生成し続ける不在を探る作品。同じ時空に固定されない存在と関係が、身体・言葉・音を裂け目としてすり抜け、交差し、生成変化していくさまを描きます。

振付・脚本：山崎広太／出演：SHlon、Sebastian Geilings、堀田千晶、藤村港平、西村未奈／音楽：内橋和久



<白鬚東アパート漂流ダンスツアー版>

期間：2026年11月3日（火曜・祝日）

場所：白鬚東アパートを中心とする周辺公共空間

梅若を祀る木母寺と白鬚東アパート周辺を一日限りで展開するダンスツアー。鑑賞者も移動しながら、土地に刻まれた記憶と身体が共振する只中へと入っていきます。

墨田区在住・在勤・在学の身体を動かすことが好きな人、ダンス、武術、スポーツなど経験のある方を対象に出演者を募ります（4月下旬募集開始予定）。

●『ブリッジ！-アートと社会福祉のあわいのなかで-』 川田知志・さとうりさ・なんでそなんプロジェクト・野ざらし

期間：2026年9月9日（水曜）～10月18日（日曜）／12月5日（土曜）～12月20日（日曜）

場所：すみだ生涯学習センター（ユートリヤ）

19世紀のイギリスではじまり、ここ墨田区でも盛んになっていた地域福祉の源流のひとつである「セツルメント運動」に着目。アーティストと共にセツルメント運動の歴史的リサーチや、墨田区で活動する福祉団体との協働等を通じて、地域福祉の実践を社会福祉、アート、街づくりが交差する文化運動としての可能性を探求します。

・川田知志（かわた・さとし）

川田知志は、土木や建築、都市構造への関心を起点にフレスコ画を制作してきたアーティストです。本プロジェクトのテーマである地域福祉を考えるうえで、その土地の成り立ちを知り、大地そのものに目を向けることも重要でしょう。これまでも訪れた土地のリサーチを通じて作品を制作してきた川田は、震災と戦災からの復興を遂げた墨田区の街では何が継承され、何が失われたのかに着目します。特に帝都復興計画を切り口として墨田区の街の変化から着想された作品を制作します。

画像クレジット | 《結構のテクトニクス》, 2025, 撮影：ToLoLo studio



・さとうりさ

ワークショップや共同制作を通じ、言葉やイメージを媒介に個人の経験や感情を他者とゆるやかに接続する表現活動を展開してきたアーティストのさとうりさを招聘。セツルメント運動における保育事業の実践に着目し、家庭環境や背景の異なる子どもや大人が、日常や地域、他者との関係性のなかの「安心できる場所」に気づくと同時に、新たな「居場所」を見つける契機となるプログラムを実施します。

画像クレジット | 撮影：成田写真事務所, 提供：弘前れんが倉庫美術館



・なんでそなんプロジェクト

「なんでそなんプロジェクト」とは、障害福祉や教育現場、そしてあらゆる日常で起こる誰かの理解できない言動を問題行動と捉えるのではなく、「なんでそなん」とツッコミを入れるようにして“わからないことをわからないまま楽しむ”アートプロジェクトです。

福祉をはじめ様々な分野の方々と協働しながら「なんでそなん」な出来事を発見・共有し、それまで当たり前だと思っていた価値観を解きほぐすことで、利用者や家族、他者の捉え方を変化させ、寛容な地域をつくることを目指します。



・野ざらし（のざらし）

野ざらしは、墨田区で立ち上がったオルタナティブスペースをきっかけに集まったキュレーター、アーティスト、建築家によるコレクティブです。これまでも他分野の人々との交流を生み出すイベントやワークショップなどを行ってきました。本プロジェクトでは、福祉における「地域アセスメント（地域の特性や課題を明らかにしていくプロセス）」をひとつの参照点としながら、多層的な視点で現在の墨田区を見つめ、街あるきやワークショップ、作品展示に取り組みます。

画像クレジット | 撮影：コムラマイ



●『ケアと演技』 ハイドロブラスト/竹中香子（たけなか・きょうこ）

期間：2026年9月11日（金曜）～9月13日（日曜）

場所：すみだパークシアター倉

実父の生活に10年余り寄り添った在宅介護チームの「ケアの技術」に感銘を受けた竹中香子は、父の死と「ケア」に向き合うため、高齢者福祉施設でのアーティスト・イン・レジデンスに参加。そこで利用者・介護者との時間を過ごし、ケアと演技の重なりを見出して生まれた本作は、2024年より全国各地でケアを巡る対話を続けてきました。

今回は劇場版の創作・上演と、公演に向けたプロセスにおいて、人々が集まり時間を共にする「場」としての芸術を立ち上げ、社会へ開いていきます。

出演：太田信吾、竹中香子／音楽：島崎智子、服部将典

画像クレジット | 撮影：加藤甫



●『解放されたプロメテウス』 小泉明郎（こいずみ・めいろう）

期間：2026年9月19日（土曜）～11月29日（日曜）

場所：すみだパークギャラリーささや

日本を代表する現代美術家の一人、小泉明郎は、社会の空気を鋭敏に捉え、批評的な作品を発表し続けてきました。本芸術祭では、代表作「プロメテウス」シリーズの第2作《解放されたプロメテウス》を展示します。

本作は、コロナ禍において日本で暮らすベトナム人の若者が見た悪夢をモチーフに、他者への想像力を問いかける作品です。過去作の再演でありながら改良が加えられ、小泉自身が「決定版」と位置づける内容となっています。VRヘッドセットを用いた体験型作品は予約制で公開されるほか、会場では平面作品や彫刻作品も展示されます。



●『TRIPHONY SYMPHONY』

期間：2026年9月19日（土曜）～12月12日（土曜）（断続的に開催）

場所：すみだトリフォニーホール 小ホール

会場となるすみだトリフォニーホールのトリフォニーとは「アーティスト」「ホール」「聴衆（区民）」が三位一体のハーモニーを奏でて音楽の感動を創造するというコンセプト。

ホールの外に飛び出して地域と向き合う今回の芸術祭では、音楽はどのように人に作用し、社会に共振をもたらすかについて、様々な形で実験・実践をしていきたいと考えています。



●『謎音－忘却の川－』 謎音研究所（なぞおとけんきゅうじょ）

期間：2026年10月16日（金曜）～10月18日（日曜） / 10月23日（金曜）～10月26日（月曜） / 10月30日（金曜）～11月1日（日曜）

場所：鐘ヶ淵全域

鐘ヶ淵の地名の由来とされる「沈鐘伝承」を手掛かりに、鐘が担う“災害を知らせる存在”という象徴性を踏まえ、関東大震災や戦禍、水害など土地に刻まれた出来事を、原因不明の音によって引き起こされる現象（＝謎音）として再考するツアーパフォーマンスです。夕暮れ時、参加者は鐘ヶ淵や向島を音声ガイドの指示に従って歩きながら、研究所調査員として地域に散在する「謎音」の痕跡を辿り、物語に巻き込まれていきます。



●『歓喜の歌～すみだ特別編』 劇団扉座（げきだんとびらざ）

期間：2026年12月19日（土曜）～12月20日（日曜）

場所：墨田区曳舟文化センター ホール

年の瀬も押し迫る12月、とある会館で別々のママさんコーラスグループを同じ団体と勘違いし、大晦日のコンサートホールをダブルブッキング。ずさんな職員の態度に激怒するママさんたちの歌声は無事に響くのか、立川志の輔の創作落語「歓喜の歌」を劇団扉座主宰の横内謙介が脚本化、「下町人情キラキラ橘商店街編」としてコーラス隊に地元参加者を迎えて上演します。2004年の初演でダメ職員を演じた六角精児が久々の登場です。



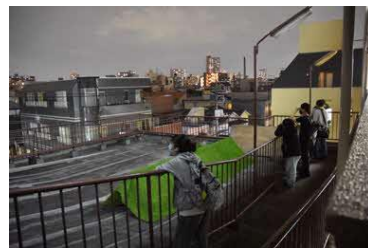
●『ミュージックチャンネル“ホンジョ 7 FUSHIGI”』 岡田裕子（おかだ・ひろこ）

期間：未定

場所：両国、錦糸町周辺

江戸時代より語り継がれてきた怪異譚「本所七不思議」。本展では、その奇譚を現代美術家・岡田裕子が現代の視点から再解釈し、新作《本所七不思議考》として発表します。

本作は、スマートフォンを通じて音声を手がかりに街を歩く体験型作品です。本所七不思議の舞台となったエリアを巡りながら、日常の風景に潜む異界の気配を呼び起こします。誰もが参加可能なこの作品は、都市の記憶と想像力を新たに接続する試みとなるでしょう。



●『みんなが社会のアーティスト（仮）』 開発好明（かいはつ・よしあき）

期間：未定

場所：千葉大学墨田サテライトキャンパス ほか

難解さを前提とする現代アートのあり方とは距離を取り、日常の感情や関係性に根ざした表現を続けてきた開発好明。本芸術祭では、墨田の中学生とともに作品を立ち上げるプロジェクトが展開されます。

正解のない問いに向き合うことが求められる現代において、アートは問いそのものを生成する実践です。アーティストとの協働を通して、中学生たちは既存の枠組みを揺さぶる視点や思考に触れます。その経験は一過性のものではなく、思考の基盤として持続していくでしょう。本プロジェクトは、芸術祭が未来へと手渡すレガシーの一つです。



●『新規作品』 沢村澄子（さわむら・すみこ）

期間：未定

場所：錦糸町周辺施設

書家・沢村は、文字と絵画のあいだを往還する自由闊達な表現で知られます。

本芸術祭では、北斎ゆかりの柳嶋妙見山法性寺の襖に書かれた「いろは歌」「法華経」など全 28 本を特別公開します。

通常は一般公開されていない作品を鑑賞できる貴重な機会です（公開日は限定）。あわせて、墨の多彩な表現を通じて本芸術祭の理念である

「五彩」や「発気揚々」を体現した新作も発表します。

画像クレジット | 右《山川草木》, 左《阿吽》, 撮影：澤村明彦



●『すみだ鉄道・見立て線 開通「足元の展望台」』 鈴木康広（すずき・やすひろ）

期間：未定

場所：東武博物館

日常の気づきや疑問を膨らませ、「見立て」を通して新たな切り口を示す鈴木康広。東武鉄道の 100 年以上にわたる歴史や交通のしくみを紹介する東武博物館を舞台に、実物車両や展示物に寄り添いながら、人々の移動や旅の記憶を手がかりに作品を構想します。あわせて、博物館のある向島を歩いて発見するプログラムや、乗車体験の感覚を交換するワークショップなどを行い、館と街を行き来する機会をつくります。

※入館料は別途かかります。



●『すみだの記号（仮）』 高須賀昌志（たかすか・まさし）

期間・場所：未定

高須賀昌志は、公共空間における表現を手がけるアーティストです。デザイン分野を出自とする高須賀は、彫刻的に形を付与するのではなく、与えられた環境に内在する要素を見出し、それらを編集することで、その場にふさわしいかたちを導き出してきました。

本芸術祭では、墨田区内の多様なものづくりの現場を訪れ、リサーチを通して出合った素材を用いた新作を発表します。地域に蓄積された技術や物質を再編し、現在の墨田を象徴する風景を立ち上げる試みです。



●『《食と文化～錦糸町プロジェクト～》（仮）』 中山晴奈（なかやま・はるな）

期間・場所：未定

現代アートにおいて、「食」は単なる消費ではなく、社会や文化の構造を映し出す重要なメディアムとなっています。中山晴奈は、その領域を切り拓いてきた作家の一人です。

本展では、近年増加する外国人による生業（なりわい）に着目し、そのリサーチをもとに、地域における文化的多様性の現状と課題、可能性を提示します。展示やワークショップを通して、日常の「食べる」という行為の背後にある関係性を可視化し、多様な文化背景をもつ人々との共生について考える場を開きます。



●『産業と歴史、そして生きること』 弓指寛治（ゆみさし・かんじ）ほか

期間：未定

場所：墨田区社会福祉会館ほか

明治以降、東墨田、八広エリアには、多くの町工場が立ち並び、日本の近代化を支えてきました。近年では廃業したり移転したりする工場も多く、その跡地にはマンションなどが新しく建てられ、その街の姿は変わりつつあります。本プロジェクトでは、墨田区社会福祉会館を会場とし、当地の主な産業の一つである皮革産業の歴史や、関わった人たちに光を当て、この地域の過去・現在・未来を考える機会とします。現代アーティストによる展示のほか、アーティストによる学びのプログラムを展開します。

・「せいけつ」 弓指寛治（ゆみさし・かんじ）

弓指は、個人では抗いがたい運命の中に生きる人々に光を当て、絵画を中核とした表現を展開してきました。本芸術祭では、石鹼をモチーフとする新作を発表します。

江戸期の皮革産業に端を発し、明治以降の墨田へと引き継がれた生産の歴史は、副産物である油を通じて石鹼産業の発展へとつながりました。戦後の混乱期には、物資不足の中で多くの「ヤミ石鹼」が流通したといえます。

本作は、困難な時代においても人々が抱いた「清潔でありたい」という欲望に着目し、リサーチをもとに制作されます。



・「創造力の学校」

現代アーティストによる学びのプログラムを展開します。

京島・向島エリアには多くの表現者が拠点を構え、日々実践を重ねています。本プログラムでは、そうしたアーティストたちの経験や知見を、ワークショップやトーク、シンポジウムを通して共有します。週末を中心に開催される各企画では、制作の背景や思考のプロセスに触れながら、創造の現場を学びへと開いていきます。

公募企画採択事業一覧

公募応募者名	プロジェクト名	実施時期	分野
青い風よ	「すんだ風とお月さま」	9 月～12 月	音楽、美術、 舞踊、映像
タミノータ・プロジェクト	すみだ幻影アクアリウム	9 月初旬	複合
株式会社せかいなことば	湯につかり、写真にしずむ	9 月～10 月	美術
ああ 99 ビビ	働くカラダのためのダンスな体	9 月～12 月	舞踊
PANCETTA	PANCETTAWALK IN SUMIDA	9 月中旬	音楽、演劇
佐藤史治と原口寛子	不在の配達（仮）	9 月中旬	美術
武田有史	『墨田に生きる個の五彩』ケア記録 からこぼれ落ちてゆくもの	9 月中旬	複合
横谷奈歩	第二次世界大戦（東京大空襲）を素描する	9 月中旬～11 月	美術、複合
DANCE PJ REVO	本所七不思議前衛舞踊作品集	9 月中旬	舞踊
伊藤洋志	コンクリから緑の回廊へ-ブロック 塀ハンマー解体協会	10 月～12 月	美術
吉野潤一	吾嬬町綺譚～旧町名地域の史蹟散 策、伝統芸能、演劇、防災、街中ア ートを学ぶ～	10 月～11 月	美術、演劇、伝 統芸能
草野なつか	『知らない顔：隅田川にて（仮）』 一能と演技における〈顔〉のワーク ショップと短編映像 の上映とトー ク	10 月～12 月	美術、演劇、映 像、伝統芸能
波と月／Vague et Lune	澱（ヨド）を縫う、雨を撫でる	11 月	美術、演劇
mina_te_mari	キラキラ路地の窓越しに★ことば と記憶の採集	11 月下旬	複合
シニフィエ	小野晃太郎新作戯曲『百合鷗（仮）』 上演	9 月中旬	演劇
神田佳子	S×M×音（スモオト）一相撲太鼓 ×打楽器 × リズム 音のパビリオン in すみだ	9 月中旬	音楽、映像、伝 統芸能
「隅田川を眺めるプロジ ェクト」実行委員会 ポス ト工務店 BUGHAUS	隅田川を眺めるプロジェクト ver2	10 月初旬	美術、伝統芸能
チーム・チープロ	女人四股ダンス	11 月初旬	舞踊